

帯広畜産大学同窓会報

第33号 令和8年8月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

重要なお知らせ：事務局だより（P13）をご覧ください

会 長 挨 拶

帯広畜産大学同窓会会長
三津原 勝
(昭和55年農業工学科卒)



同窓生の皆さん、お変わりなくお過ごしでしょうか。
昨年10月の同窓会の総会で会長に再任されました。
2年間の任期ですが、よろしく願いいたします。

さて、同窓会の近況をお知らせします。10年ほど前に解散した札幌支部が、5月30日に再設立いたしました。総会には約50人の会員が参加し、役員を選任と今後の活動について話し合いました。支部長にはS63年卒の芳賀是則さん、副支部長にはS60年卒の馬淵達也さん、事務局長にはS59年卒の大友秀文さんがそれぞれ選任されました。再設立には本学の辻修名誉教授がかつての教え子の皆さんなどに声掛けし、昨年12月に準備会を立ち上げました。会員への連絡は郵送ではなく、メールなどで連絡し、今後さらに交流の輪を広げる方向を確認しました。今後、各地の支部活動が活発になり、それぞれの地域の同窓生の交流の場として広がっていくことを願っています。

さて、同窓会の会員名簿は平成23年を最後に冊子での発行を取りやめております。その後会員のデータが整理できない状態が続いておりましたが、昨年からは同窓会支援室の協力により本格的に名簿の整理を行っております。

データの欠落部分がありますが、一応の整理の目途がたった状態となりました。今後は各支部での活用も可能となるよう取り進めます。

また、同窓会の会報は、昨年からは経費削減と皆さんに同窓会のホームページの閲覧を促すため、同窓会報をホームページ上に閲覧し、皆さんにPDFファイルをダウンロードしていただく方式に切り替えました。ただし、紙媒体での同窓会報を希望される方には、ファイルを別途印刷し郵送いたします。今後もこの方式で対応いたしますので、なにとぞご理解いただきます

ようお願い申し上げます。

母校畜大では現在、様々な取り組みを行っています。私は仕事柄、畜大に行くことが多いので、実際に見たり聞いたりする機会に恵まれています。特に一昨年から馬に関する施設整備や取り組みが目立ちます。昨年までに新厩舎、覆馬場などが整備、今年は防疫管理棟、繁殖舎、繋留場、開放馬舎、丸馬場、堆肥舎や放牧地も整備しました。さらに今年は水田を造成し、来年から地下灌漑を含めた米づくりも手掛ける計画があります。今後さらに高度な教育・実習が可能となるようで、期待したいと思います。

先日、サッカー部の同期の友人がサッカーの試合で帯広に来ました。彼は今でも現役プレーヤーで、彼の所属する千葉県のシニアチームが、毎年北海道に遠征試合に来ているそうで、今年は帯広で交流試合を行ったとのこと。彼も私と同じ70才手前なのにその体力と行動力に感心するやら何やら。仕事は週に3日の勤務だそうで、まさにワークライフバランスだと感じました。自分の体と生き方に向かい合っていくことが大事だと改めて思った次第です。

さて、今年もホームカミングデーが10月10日（土）に開催されます。昨年も多くの同窓生にお集まりいただき、楽しい集いの場となりました。あわせて部活や学科の仲間たちが集まるいい機会となったようです。私の研究室も、この機会に同窓会を行う計画で、今から楽しみにしています。ぜひ多くの同窓生の皆さんがホームカミングデイに参加して、懐かしい、そしてバージョンアップした母校を見に来てください。

大学近況報告

帯広畜産大学長
長 澤 秀 行
(昭和53年獣医学科卒)



6年間大学を離れた後、2022年4月に再び学長に任
命されてから早くも1期4年が終了し、本年4月に、

北海道国立大学機構（北学機構）の長谷山理事長から「あと2年間」と再任を要請されました。通算すると13年目となります。マンネリ化することなく、社会の変化に対応した学生中心の大学経営を行いたいと思います。

最近の大学の動きをいくつかご紹介します。昨年8月に、「十勝型フードシステムの形成」を目的とする内閣府事業「地方大学・地域産業創生交付金」に採択されました。本学、小樽商大、北見工大が農商工連携し、「帯広市」と「とかち財団」の協力の下、十勝の農畜産物に付加価値を付け、産業を創出して雇用を生み出すことが目標です。合わせて「フードバリューチェーン人材の育成」にも取り組みます。10年間の事業期間において、3大学連携の成果が生まれるものと期待します。

次に、実証圃場に営農型垂直型太陽光発電施設が整備されました。国内最大規模となります。垂直式の太陽光パネルで年間約100万キロワットの発電量となり、大学の消費電力の約15%を賄います。パネルは6列設置され、パネル間には小麦、甜菜、金時、小豆、牧草を栽培し、作物の生育や収量への影響、トラクターなどの作業効率、地域景観との調和などの研究課題を設定し、十勝地域におけるカーボンニュートラルの推進と持続可能な農業の実現に寄与したいと考えています。

パネルの北側には、水田圃場の整備が始まりました。橋本総業ホールディングスとの連携により「hat 次世代型水田寄付講座」が設置され、地下灌漑システムやスマート農業技術の研究を進めます。将来は水稻と陸稲により酒米を生産し、碧雲蔵でオール畜大の日本酒製造に取り組みます。「清酒学」「清酒醸造実習」は上川大雪酒造と連携して開講されていますが、本学が目指す「農場から食卓へ」生産現場から食品製造、流通までの知識・技術を体得した人材養成のモデルです。

水田圃場の北東側には、3期にわたる「馬関連施設」が完了しました。1期（厩舎、飼料庫、管理棟）、2期（馬生産育成教育棟、通称覆い馬場）、3期（丸馬場、繁殖舎、防疫管理・放牧関連施設群）が整備され、日本一の施設となりました。地域や国内の馬産業を担う人材の育成を目的とした「馬産業人材育成プログラム」も開講されています。

その他、チーズ工場の設置や十勝産あずきの付加価値向上のための「あんこ研究所」の設立など、実証研究の場を学生教育に提供し、特色ある大学づくりに努めています。

本学は、地域や社会の期待に応えるべく「食を支え、くらしを守る」グローバル人材の育成に向けて、学生と教職員が力を合わせて汗を流しています。同窓生の皆様には、引き続き、本学に対するご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。



副学長に就任して

帯広畜産大学副学長・教授

古 林 与志安



帯広畜産大学同窓生の皆様には、本学の様々な活動にご理解と、多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

令和4年4月より副学長（獣医学教育国際認証・研究担当）を拝命していましたが、本年4月から新たに副学長（総務・研究担当）を拝命しました。同時に附属図書館長職も兼務することとなりました。「獣医学教育国際認証担当」という肩書きがなくなっていますが、担当が外れたというわけではありません。本稿では、私が担当している管理運営業務のうち、研究と獣医学教育国際認証について、令和4年に寄稿させていただいた内容についての進捗を報告させていただこうと思います。

研究面では、大学全体の研究活性化・研究力向上を図るため、様々な研究活性化支援策を毎年行っており、その成果が確実に出ています。令和6年には実証研究に力点を置いた「次世代農畜産技術実証センター」を設置しましたが、本センターや産学連携センターを中心とする取り組みは、令和6年度内閣府事業（地域中核イノベーション創出環境強化事業）と令和7年度内閣府事業（地方大学・地域産業創生交付金事業（帯広市））に採択されています。また、2件の寄附講座と2件の共同研究講座の設置や、大学組織改革の「食品加工イノベーションセンター」設置にもつながっており、今年度は「チーズ工房」も建設予定です。原虫病研究センターでは、日々の地球規模課題解決に貢献することを目指した研究活動を通じて、モンゴル国を相手国とした研究課題、「コウ疫撲滅に向けた研究および防疫基盤の確立」が、令和6年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)に採択されています。更に、今年度もアルゼンチン共和国を相手国とした研究課題、「繁殖障害性原虫の疫学的監視と制御を通じた家畜生産性向上」が採択されています。今後も大学として、基礎研究、産学官金連携研究、そして国際共同研究を推進させたいと考えています。

本学畜産学部共同獣医学課程は、平成24年より北海道大学と相互補完的な獣医学教育を共同獣医学課程(VetNorth Japan: VNJ)として実施しています。そして、VNJの教育の質と国際通用性を担保するため、欧州獣医学教育機関協会の認証を令和元年に取得しています。この認証基準は社会状況に変化に対応するため、3～4年毎に精査・改定され、各獣医学教育機関は最新基準に従った評価を7年毎に受審する必要があります。VNJは、本年6月15～19日にこの再審査（現地審査）を受審することになっており、現在、再認証取得に向けて関係者が一丸となって取り組んでいます。

新たに増えた担当業務の中には不慣れな部分もありますが、帯広畜産大学発展のために引き続き邁進していく所存です。今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

副学長就任のご挨拶

帯広畜産大学副学長・教授

川 島 千 帆

(平成11年畜産環境科学科卒、
平成13年畜産科学専攻修了)



帯広畜産大学の同窓生の皆様には、日頃より本学の様々な活動に多大なご理解・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私は令和8年4月1日付で、学生支援・入試担当の副学長に就任いたしました。本学畜産環境学科を平成11年に卒業後、大学院畜産学研究科修士課程を平成13年に修了し、民間企業勤務を経て、平成15年より本学の21世紀 COE プログラム研究員として着任しました。その間に博士号を取得し、平成19年には本学初の任期付き助教として畜産フィールド科学センターに採用されました。平成21年には本学初の産休・育休を取得し、その後、講師、准教授、教授を経て、現在に至ります。また、昨年度までの4年間は、ダイバーシティ担当の学長補佐をしておりました。

専門は乳牛の栄養と繁殖であり、分娩前後の母牛の栄養代謝状態が繁殖性や生産性に及ぼす影響、さらに妊娠期の母牛の栄養状態が産子の発育や繁殖機能などに与える影響について研究しております。現在は副学長業務のため本部棟で勤務する機会も増えてきましたが、引き続き畜産フィールド科学センターでも、授業や実習、学生指導に携わっております。

着任から日が浅く、学生支援や入試に関する具体的なお話はまだ十分にできませんが、本学でこれまで深く関わってきたダイバーシティ推進についてご紹介いたします。本学は女子学生比率が6割を超える一方、女性教員比率は長年12%前後にとどまっていました。また、農畜産分野では研究者自体の不足も課題となっていました。そこで、本学博士課程修了者を「特任助教」として採用し、継続的なキャリア形成を支援する「生え抜きキャリアパス制度」を整備しました。この取り組みは文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」にも採択され、現在では女性教員比率は21%を超えております。また、本学ならではの専門性を有する教員の確保にもつながり、教育研究体制の充実に寄与していると感じております。

学生支援・入試担当としてはまだ不慣れな点もございますが、本学のさらなる発展のため尽力してまいります。今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

広がる畜大の人材育成

帯広畜産大学副学長・教授

岩 本 博 幸

(平成9年畜産管理学科卒)



令和8年4月より、帯広畜産大学の副学長（教育・社会連携担当）を拝命いたしました。

私は平成9年に本学の畜産管理学科を卒業し、その後、北海道大学大学院に進学して農業経済学を学びました。政策研究大学院大学、東京農業大学を経て、平成31年（令和元年）に母校である帯広畜産大学に着任し、現在は環境農学研究部門において、消費者行動分析や環境経済評価を専門とした教育・研究に取り組んでおります。研究では、環境配慮型農業やアニマルウェルフェア、持続可能な食料システムなどをテーマに、社会と農業をつなぐ課題に向き合っておりまいた。

現在は、副学長職と兼任で高度人材共創センター長として、地域や産業界と連携した人材育成に取り組んでおります。特に、令和7年度に採択された内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」では、人材育成研究部会長として、リカレント教育や大学教育の高度化に挑戦しています。この事業は、帯広市が申請主体となり、地方大学として北海道国立大学機構の3大学（帯広畜産大学・小樽商科大学・北見工業大学）が研究開発および人材育成を担うことで、地域に産業と雇用を創出し、新しい時代の人材育成を担う大学づくりを加速することをミッションとしております。

人口減少や産業構造の変化が進むなか、大学には若者教育だけでなく、社会人の学び直しや地域課題解決の拠点としての役割が強く求められています。十勝という農業の将来を担う人材を育成するには最適な土地で、地域に根ざした実践的教育を基盤に、多様な世代・産業と共創する大学づくりを進めていきたいと考えております。

帯広畜産大学は、食と農、生命、環境を軸に社会へ貢献してきた大学です。そして、その歩みを支えてきたのは、全国各地で活躍されている同窓生の皆さまの存在にほかなりません。事実として、これまでの本学における産学官金連携にかかわる取り組みにおいても、業界の要所には必ず畜大卒業生の活躍があり、多大なご支援をいただいて参りました。今後も、本学の教育・研究・地域連携をさらに発展させるため、卒業生の皆さまとのつながりを大切にしながら、大学運営に尽力してまいります。

引き続き、温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



帯広畜産大学江別同窓会30周年記念例会を開催しました

令和7年7月5日に、帯広畜産大学江別同窓会30周年記念例会を開催しました。

帯広畜産大学江別同窓会会長の中尾敏彦様からのコメントは以下のとおりです。

畜大江別同窓会は、1995年に、昭和30年～33年頃に卒業した碧雲寮出身者が中心となって設立され、会員名簿の発行、会員相互の親睦と交流、同窓会旗（弔旗）の製作と維持管理などの事業を継続しています。会員数は、おおむね30～40人で推移し、現在29名です。今年は、設立30周年を迎えることから、7月5日に、30周年記念例会を開催しました。

幸い、同窓会本部から三津原会長にもご臨席をいただき、和気あいあいとした雰囲気、記念式典および懇親会を行い、母校帯広畜

産大学の歴史を偲び、現況と将来の発展などに思いをはせることができました。また、功労会員として平成21年以降の歴代の会長3名の方々に謝意を表するとともに、当日はご都合が付き出席できませんでしたので、後日、記念品の贈呈を行いました。

これからも、会員相互の親睦交流をはかり、母校の発展に寄与するという本会の目的を達成できるよう、努力したいと思います。



帯広畜産大学新潟県同窓会を開催しました

新潟県同窓会幹事長

遠 山 潤

(昭和63年 獣院)

令和7年11月16日に、帯広畜産大学新潟県同窓会を開催しました。

新潟県同窓会幹事長遠山潤様からのコメントは以下のとおりです。

帯広畜産大学新潟県同窓会は平成10年に結成し、コロナ禍の時期を除き隔年で総会、懇親会を開催してきました。現在事務局で把握している会員は50名ほどですが、和気あいあいと楽しく親睦を深めております。今回は県内で発生した高病原性鳥インフルエンザ対応で直前に4名の会員が欠席となりましたが、同窓会員10名に加え、同窓会本部から名和靖史副会長をお迎えし和やかな同窓会となりました。

大学から資料のほか、令和7年産の「畜大酒」を2本も送っていただき、大きく発展している令和の時代の母校の状況を名和副会長からお聞きしながら酒を酌み交わしました。

酒が進むにつれ、皆がタイムスリップして昭和の過激な学生時代の話に花が咲き、最後は声高らかに逍遙歌を歌い、2年後の再会を誓いながら散会となりました。大学並びに本部同窓会の手厚いご支援に心より感謝申し上げます。



帯広畜産大学同窓会釧路支部総会および 懇親会を開催しました

釧路支部長

田 中 卓

(昭和53年環境, 57年環院)

令和7年11月1日に、帯広畜産大学。窓会釧路支部総会および懇親会を開催しました。

釧路支部田中支部長からのコメントは以下のとおりです。

11月1日にアクアベールくしろで釧路支部の総会および懇親会を行いました。

総会は令和3年以来、懇親会は令和元年以来の開催で、令和3年の総会で支部長となった私にとっては、初めての総会および懇親会となりました。

私が支部長になったのは新型コロナウイルスが蔓延している最中で、昼間に役員会を行い、日野浦支部長から引き継ぐことになりました。その時は新型コロナ

が流行っていたため、懇親会は開催できませんでした。

帯広畜産大学同窓会の役員変更は2年に一度であり、令和5年もその年に当たっていましたが、新型コロナの警報は解除されていたものの、年配者が多く感染が心配で総会、懇親会の開催は見合わせました。このため今回の開催は、総会は4年ぶり、懇親会は6年ぶりとなってしまいました。

久しぶりの開催となったため、どのようなメンバーが何人位集まるのか、皆さんお元気で参加していたたけるのか心配していました。

当日は釧路支部会員13名が参加し、ゲストとして長澤学長、三津原同窓会会長も参加していただきました。これまでの会とは違い、宇治田事務局(H28獣医)のおかげで随分若い卒業生の参加が多く、今後を期待させるものとなりました。

総会は支部長を議長として進められ、役員は全員留任することになりました。

懇親会では、支部長挨拶後、長澤学長、三津原同窓会会長の紹介、挨拶を頂き、参加者の中で最高齢の中出さん(S35総農)の乾杯で懇親会は始まりました。

その後、今回の参加者は最年長の中田さんから、最年少の宇治田さんまで50歳以上の年齢差があり、また初参加の方も多いため、自己紹介をして頂きました。

大学から頂いた日本酒(畜大酒)も好評であっという間に空となり、大変盛り上がった宴会となりました。

最後は大西さん(H1家畜生産)の前口上で「帯広畜産大学逍遙歌」を歌い、副支部長の山口さん(H2家畜生産)の中締めの言葉で締めました。

記念撮影後、多くの方は二次会の席へと、末広の街に消えて行きました。



帯広畜産大学同窓会九州・沖縄支部総会を 開催しました

令和7年11月15日に、帯広畜産大学同窓会九州・沖縄支部総会を開催しました。

今回の総会で、現在の深田泰三会長が名誉会長となり、新たに会長は赤木信義様、副会長には家入誠二様の就任が決まりました。

帯広畜産大学同窓会からは三津原会長が出席し、総勢15名で盛会のうちに会は幕を閉じました。



帯広畜産大学関東同窓会に長澤学長が 出席しました

令和8年5月23日(土)、東京都内で帯広畜産大学関東同窓会総会・懇親会が開催され、長澤学長が出席しました。

関東同窓会は、関東に在住する帯広畜産大学の卒業生・修了生約200名で構成されており、今回は約50名の同窓生が集まりました。

当日は、関東同窓会の林克昌会長による開会挨拶で始まり、続いて長澤学長から大学の近況報告が行われました。報告では、開学当時の写真を交えながら、教育・研究環境の充実や施設整備など、大学の発展の歩みが紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

懇親会では、三津原勝帯広畜産大学同窓会長の発声により、碧雲蔵の日本酒で乾杯が行われました。また、長年にわたり関東同窓会会長を務め、会の発展に大きく貢献された澤田拓士前会長に対し、感謝状が贈呈されました。

会場では、参加者同士が旧交を温めながら親睦を深め、終始和やかな雰囲気になりました。最後は全員で逍遙歌を合唱し、盛会のうちに閉会しました。



▲逍遙歌の合唱で締めくくられた関東同窓会



帯広畜産大学同窓会札幌支部に長澤学長 が出席しました

令和8年5月30日(土)、札幌市内で帯広畜産大学同窓会札幌支部総会・懇親会が開催され、長澤学長が出席しました。

札幌支部は、約10年前に活動を中止し解散していましたが、このたび同窓生有志の尽力により新たに設立されることとなり、48名が参加しました。

総会では、新たな会則の制定及び役員の選任が行われ、支部長に芳賀是則氏(昭和63年農業工学科卒業)、

副支部長に馬淵達也氏(昭和60年農業工学科卒業)、事務局長に大友秀文氏(昭和59年農業工学科卒業)が選任されました。また、「誰でも参加しやすい気軽な会」をモットーに運営していくことが確認されました。

その後の懇親会では、長澤学長、三津原勝帯広畜産大学同窓会長及び辻修名誉教授(昭和53年農業工学科卒業)から祝辞が述べられました。長澤学長は、大学の近況や教育・研究の取組について紹介するとともに、同窓会活動への感謝と札幌支部の再設立への期待を伝えました。

懇親会には、昭和53年卒業から令和7年卒業まで幅

広い世代の同窓生が参加し、学生時代の思い出や近況報告などに花を咲かせながら交流を深めました。

初めて同窓会に参加した方も多く見られ、世代を超えた交流の輪が広がりました。

最後は参加者全員で逍遙歌を歌い、来年の再会を約束して閉会しました。



会員の声

チーズ作りを通じた地域づくりへの思い

伊 勢 昇 平

(平成20年 食品科学ユニット卒業)

帯広畜産大学同窓会の皆様、ご無沙汰しております。私は北海道旭川市江丹別という、人口減少が進む小さな集落で生まれ育ちました。実家である伊勢ファームの牛乳で世界一のチーズを作りたいという思いから、2004年に本学へ入学しました。正直お世辞にも真面目とは言えない態度で4年間をやり過ごし沢山のご迷惑をかけた身としてこのような機会を頂き、嬉しい反面自分でいいのかと恐縮の思いです。

卒業後は新得町の共働学舎新得農場で約1年半の修業を積み、その後フランスでもチーズ作りを学ぶ機会をいただきました。江丹別に戻ってからは、家族で営む牧場のミルクを使い、試行錯誤を重ねながらブルーチーズの製造を始めました。生まれたのが「江丹別の青いチーズ」です。ありがたいことに国産食材として初めてANAとJALの国際線ファーストクラス機内食に採用していただき、国内のチーズコンテストで最優秀賞をいただいたり、テレビなどのメディアで取り上げていただく機会も増えました。

今、特に力を入れているのは「チーズを通じた地域づくり」です。江丹別は限界集落と呼ばれるほど人口が減っていますが、夏は30度を超え、冬は全国一の寒さを記録するこの厳しい気候こそが、ブルーチーズに適した土地だと感じています。築80年のレンガ倉庫をチーズの熟成所に改装したりレストランやパン屋、サウナ事業も開始するなど、様々な取り組みも広がっています。チーズをきっかけに人が訪れ、楽しんでもらいたくまた帰ってきたく村にしたいと考えています。「世界一のチーズを作り、江丹別を世界一の村にする」を合言葉に、これからも挑戦を続けてまいります。

高校時代の恩師から「実家の牛乳で世界一のチーズを作れば、それも立派に世界で活躍することだ」と言われたひと言が、今でも私の原点です。本学で得た酪農や乳製品の知識と人とのつながりは、その夢を形にするための大きな財産になりました。後輩の皆様にも、それぞれの場所で「世界一」を目指していただきたいと思います。同窓の皆様にも、いつか江丹別へ足を運んでいただければ嬉しく思います。



【還暦を過ぎてからの新規事業始動 ～技術の承継と夫婦の新たな挑戦～】

藤 田 恵

(昭和63年 畜産環境学科卒業 環境保全学研究室)

「自分たちが食べられるものを、自らの手で作りたい」

昨年2025年に61歳を迎え、人生の新たなステージとして、2026年3月にシャルキュトリとプラントベース米粉菓子の店をオープンいたしました。



当店は夫婦で製造・販売を分担しており、私がシャルキュトリ（ハム・ソーセージ等の食肉加工製品）の製造を、そして自身のグルテンアレルギーを起点に「低アレルギー菓子の開発」を志した妻が、プラントベースの米粉菓子の製造を担当しています。

振り返れば、私の食への探求心は子供のころからで畜大在学中は食品科学系の他学科履修を自発的行なったのも今に通じています。卒業後は、当時食肉加工学の権威であられた三浦教授の御紹介により、池田町の十勝池田食品へ入社。研究開発室の一員として新商品開発に従事いたしました。その在職中に開発に携わった「ちほく高原ベーコン」は、幸いにも当時の味を変えることなく、約40年が経過した今なおロングセラーとして愛され続けております。その後、同社を退職し、「牛とろフレーク」の開発・製造販売会社を設立して代表取締役役に就任。3年前にM&Aにて事業を売却いたしました。



一度は第一線を退いたものの、昨年、久しぶりに豚1頭を丸ごと加工・製品化する機会をいただきました。その際、若き日に培った職人としての技術と情熱が再燃し、「いっちょやるか！」と一念発起した次第です。

私自身、朝食にベーコンエッグをご飯にのせて食べるのが大好物で、長年「究極のベーコン」を求めて家庭での試作や食べ歩きを重ねてきましたが、納得のいく仕上がりには巡り合えずにいました。そこで「自分が本当に食べたいベーコンを自作する」をテーマに据

え、拠点を模索していたところ、縁あって芽室駅前の元菓子店店舗を紹介され、2025年10月に賃貸契約を締結。半年間の準備期間を経て、今春ようやく開店を迎えました。これまでに蓄積してきた食肉加工技術の承継・発信も、この店の重要な役割と考えております。小規模ながらも息長く続けてまいりますので、同窓の皆様、帯広・十勝にお越しの際にはぜひお気軽にお立ち寄りください。

FOOD LABO FORTUNA

(フードラボ フォーチュナ)

〒082-0030

芽室町本通2丁目10-1

藤田 恵（ふじた けい）帯広市出身



畜大を卒業してから

金城 健斗

（令和4年 別科卒業）

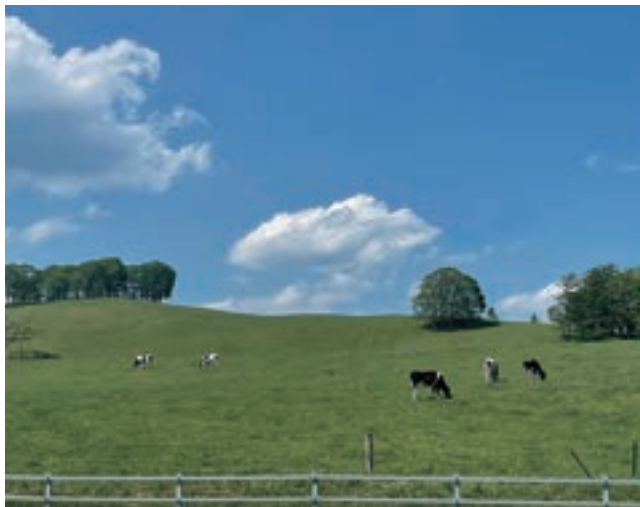
畜大を卒業して私は新得町で牛の授精師として働いています。卒業後は地元の沖縄に帰って授精師の仕事をしたと考えていました。しかし、広い大地でのびのびと過ごす牛たちの光景に憧れて北海道に来たため、それを別科在学の二年間で切り上げてしまうのは惜しいように感じ、十勝での就職を決めて今の形に落ち着きました。その仕事も5年目に突入したところですが、近頃は畜大で別科生として学んでいたこと



を思い出す場面が増えているように思います。

昨年、仕事でお世話になっている牧場から「牛の繁殖について勉強会をしてほしい」という依頼を受け、講義を行ったことがありました。これまでは教授や講師の話を座ってメモをとる立場だったのが、今度は自身が教壇に立つことになりました。大学の時の講義資料を押し入れから引っ張り出し床に広げ、どの範囲を教えたらいいだろうかと悩んだ末、「発情周期中の子宮と卵巣の動き」「ホルモンの働きと発情の同期化」「AM・PM法」に焦点を当て、話す内容の順序決めや強調して伝えたいことなどを絞っていきました。当日は私なりにかなりの準備をして本番に臨みましたが全く上手く話せませんでした。説明の途中でこっちの表現の方が分かりやすいかもと話が右往左往して段々と着地点が分からなくなり、自分でも混乱してしまう場面が多々ありました。人に物事を教えることの難しさを実感すると同時に、大学で教鞭をとっている先生方もまたプロであったのだとしみじみと感じました。さらに去る四月には、在学中に哺乳バイトに行っていた和牛農家から新規選抜された種雄牛がデビューすることがありました。この牛は私がバイト時代に実際に哺乳していた牛だと、当時お世話になっていた社長から後代検定の段階で聞いていたため、選抜が決まった時は喜びがとても大きかったです。

土地柄から普段仕事で関わる人の中には畜大卒の人も多いため大学時代の話になることも多々ありますが、前述した二つの出来事はより私の畜大別科卒業生というアイデンティティを確立させた出来事のように思います。これも十勝に残ることを決めたからこそなのかもしれません。この先も夏は放牧地の大草原の中をのんびり過ごす牛を眺めながら、冬は真っ白な雪景色の中を寒さに震えながら授精業務に勤しみたいと思います。



小幡千奈津さんが第68回全日本学生賞典総合馬術競技大会で4位に入賞しました

令和7年11月2日(日)～3日(月)に、兵庫県の三木ホースランドパークで開催された「第68回全日本学生賞典総合馬術競技大会」において、馬術部の小幡千奈津さん(植物生産科学ユニット4年)が個人の部で第4位に入賞しました。

この大会は、全国の学生馬術選手が「馬場馬術」「クロスカントリー」「障害飛越」の3種目で総合得点を競うもので、馬と選手の高い技術と信頼関係が求められる競技です。

小幡さんは、柏陽号とともに出場し、初日の馬場馬術では13位からのスタートとなりましたが、2日目のクロスカントリー 障害飛越の両種目で減点0の走行を見せ、順位を上げて総合4位に入賞しました。

小幡さんは、「今大会では、団体としての入賞を目指していましたが、出場予定だった馬の怪我や体調不良もあり、メンバーを大きく入れ替えることになりました。正直、不安もありましたが、すぐに気持ちを切り替え、人馬ともに無事に帰ってくることを、最後まで諦めずにやり切ることを意識

して競技に臨みました。

柏陽号を信じて走り切

れたこと、そして支えてくれた仲間や後輩に心から感謝しています。」と語りました。

また、この大会をもって他の4年生部員が引退を迎える中、主将としてチームを牽引してきた小幡さんは、「何よりも馬を大切にし、日々のケアを怠らないことが一番大切です。冬のオフシーズンをしっかりと馬のために使い、来年の大会に向けて力をつけてほしいと思います。」と後輩への思いも語りました。

大会後、馬術部の部員は11月13日(水)に学長を訪問し、代替わりの挨拶と大会結果の報告を行いました。なお、小幡さんは12月に開催される全日本学生馬術女子選手権大会の出場をもって引退となります。



▲馬術部主将 小幡千奈津さん



▲馬場馬術競技では
息の合った演技を披露しました



▲力強く跳び上がり、
高くそびえる障害を見事に飛び越えました

【馬術競技】個人結果
4位 小幡千奈津×柏陽号
馬場馬術減点: 33.5
クロスカントリー減点: 0
障害飛越減点: 0
総減点: 33.5
ポイント数: 81



▲表彰式で披露したウイニングラン

「垂直式営農型太陽光発電に関する 実証研究設備の現地見学会」を開催

令和7年11月10日(月)に、帯広畜産大学、北海道自然電力株式会社および東急不動産株式会社による「垂直式営農型太陽光発電に関する実証研究設備の現地見学会」を開催し、71名にご参加いただきました。

帯広畜産大学と北海道自然電力株式会社は、令和6年8月20日付で北海道十勝の農畜産業における垂直式営農型太陽光発電の実証研究等を通して、地域のカーボンニュートラルの実現及び持続的発展に貢献することを目的に連携協定を締結しています。

この協定に基づき設置された「北海道自然電力共同研究講座」の取組みの一環として、帯広畜産大学の畜産フ



▲左から北海道自然電力株式会社・堂屋敷氏、東急不動産株式会社・畠山氏、帯広畜産大学・長澤学長、帯広市川西農業協同組合・山根氏

ィールド科学センター圃場(以下、「実証圃場」という)にて大規模な垂直式営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)の実証研究を行うため、令和7年6月下旬より設置工事を進めてきました。工事の完了が近づいていることから、関係者向けに現地見学会を開催し、設備に関する説明や実証圃場で行う共同研究の概要を紹介しました。

【実証研究の目的】

十勝地域における基幹作物(小麦、豆類、てん菜(ビート)、牧草)の栽培や農業経営、景観等に対し垂直式太陽光発電施設の設置による影響を多角的に評価し、地域農業と再生可能エネルギーの共存モデルの確立を目指します。

【垂直式営農型太陽光発電設備の概要】

発電規模：743.04 kW(定格出力)

設置場所：畜産フィールド科学センター内実証圃場

発電開始時期：令和7年12月より帯広畜産大学へ電力供給開始予定

【今後の展望】

帯広畜産大学では、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、省エネルギーおよび再生可能エネルギー利用を積極的に進めています。

実証研究では、農業が盛んな十勝地域のソーラーシェアリングによる再生可能エネルギーの利用可能性の検証だけでなく、地域の生態系や自然環境との共存を図る方法についても検討します。

なお、実証研究の一部は、令和6年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業により整備された「次世代農畜産技術実証センター」の機能も活用しながら実施しています。

同センターは、農畜産分野における先端的な研究・実証の基盤として整備されたものであり、実証研究における研究推進を支える重要な役割を担っています。



▲設備全体風景

帯広畜産大学、 地域貢献度ランキング（小規模大学部門）で全国2位に！

日本経済新聞社が実施した「大学の地域貢献度調査」（2025年12月発表）で、本学が、学生数1,999人以下の小規模大学部門で全国第2位にランクインしました。総合得点は61.3点で、同部門の国立大学では1位と高い評価を獲得しています。

日経グローバル「大学の地域貢献度調査」は、全国の大学を対象に、地域社会への貢献度を多面的に評価する調査です。組織体制、学生・住民との交流、産官学連携、SDGsや防災などの項目をもとに点数化し、隔年で結果を公表しています。

評価ポイント

・地域連携プラットフォームの強化

本学は、畜産学部のみ単科大学でありながら、地域との連携において独自の取り組みを展開しています。特に注目されるのは、「地域連携プラットフォーム」の存在です。このプラットフォームでは、北海道内の大学や高等専門学校、自治体、企業、金融機関などがネットワークを構築し、研究シーズの発掘から起業・事業拡大に必要な情報・資金・環境を一貫してサポートしています。

・北海道国立大学機構での連携

さらに、2022年に小樽商科大学、北見工業大学とともに北海道国立大学機構を創設。商学・農学・工学の知を結集し、地域社会の発展に貢献する「実学の知の拠点」を形成しています。この法人統合により、教育・研究・地域連携の質を一層高め、北海道全域での課題解決に取り組んでいます。

・地域とともに歩む大学へ

帯広畜産大学は、畜産業を中心とした北海道の産業振興に寄与するだけでなく、地域企業や自治体との共同研究、学生の地域活動を通じて、持続可能な地域社会の実現を目指しています。

帯広畜産大学女子カーリングチームが 北海道カーリング選手権大会（全道大会）で第3位入賞！

帯広畜産大学女子カーリングチームが、「第45回北海道カーリング選手権大会兼アルパタ杯カーリング大会」に出場し、第3位に入賞しました。

この大会は、全道各ブロックを勝ち抜いた8チームによる総当たり戦で競われる大会です。帯広畜産大学女子カーリングチームは、1月に開催された第40回道東カーリング選手権大会で3連覇を達成し、道東代表として出場しました。

メンバーは、田中萌々子さん（サード・バイススキップ）、金高陶子さん（セカンド）、飯塚結万さん（リード）、松村菜々子さん（リザーブ）、そして本学卒業生の松田和香羽さん（スキップ）。これまで積み重ねてきたチームワークを武器に、安定した試合運びで勝ち進み、全道の舞台で堂々の3位という結果を収めました。

田中さんは、「勝ち切れなかった試合もあり、悔しさもありますが、練習の成果を発揮しながら楽しくカーリングをすることができました。表彰台を目標としていたので、3位という結果を嬉しく思います。これからも技術を磨き、この経験を部全体に還元していきたいです。」と話しました。

金高さんは、「チームみんなで決めたショットがたくさんあり、試合を重ねるごとにチームの絆が深まったと感じました。予選を1位で通過したものの、プレーオフでは思うようなプレーができず、悔しさもありますが、昨年を上回る結果を残し、表彰台に立てたことを嬉しく思います。」とコメントしました。

飯塚さんは「初めての全道大会で緊張もありましたが、チ



▲左から松村さん、松田さん、田中さん、金高さん、飯塚さん



▲石の軌道を見極めながら、ブラシで氷をスワイプ

ームメイトに支えてもらいながら試合に臨むことができました。初出場で表彰台に上がることができ、とても嬉しいです。来年度の大会に向けて課題を改善していきたいです。」と今後の抱負を語りました。

また、リザーブとして前回大会に参加した長谷部さんに代わり、試合に帯同した松村さんは、「レベルの高い試合を観戦しながら作戦を学ぶことができ、とても良い経験になりました。自分の実力不足も感じたので、これから練習や作戦の勉強にさらに励みたいです。」と話しました。

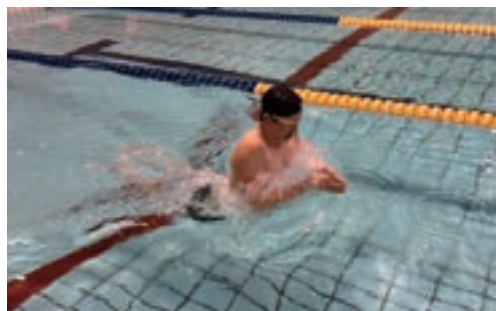
渡辺颯人さんが水泳大会で活躍 ～チームの総合58連覇に貢献～

令和8年3月1日(日)、帯広市内で開催された水泳大会「第112回」SCA 北海道ブロックマスターズスイミングフェスティバル」において、渡辺颯人さん(環境生態学ユニット4年)が個人種目2種目およびリレー種目2種目に出場し、所属する十勝の水泳クラブ「帯広スイムパル」の総合58連覇に貢献しました。

帯広スイムパルは、十勝管内を拠点に活動する水泳クラブで、幅広い年代の会員が所属しながら競技力の向上と交流を目的に活動しています。これまで同大会においても優秀な成績を収めており、長年にわたり総合優勝を重ねている実績あるクラブで渡辺さんは、個人種目として50m自由形および50m平泳ぎのほか、リレー2種目を含む計4種目の競技に出場しました。リレーでは、男子フリーリレーおよび男女混合フリーリレーにおいて、チームの一員として健闘しました。

渡辺さんは中学生時代に水泳に取り組んでいましたが、高校進学以降は陸上競技(投てき種目)やスキーに専念し、大学入学後に水泳競技を再開しました。今回の大会について、「高校生以降は水泳から離れていましたが、中学生の頃の自己ベストを更新することができ、良い結果となりました。」と振り返りました。

現在は、大学の水泳部と「帯広スイムパル」に所属し、週1回の部活動およびクラブでの練習に取り組んでいます。水泳部は、経験者・未経験者を問わず参加できる環境づくりを進めており、学生大会への出場を目標に活動しています。



▲得意のプレストストローク(平泳ぎ)で力強い泳ぎを見せる渡辺さん

また、水泳部は、3月15日(日)に音更町で開催された「オカモト杯3時間スイム駅伝2026」に出場し、総距離12,450mを記録して第2位となるなど、地域の水泳イベントにも積極的に参加しています。

渡辺さんは、水泳部に入部したきっかけについて、「プールでのアルバイトを通じて現在の部長と知り合い、声をかけてもらったことが大きかったです。経験の有無に関わらず楽しめて、設備の整ったプールで練習できる点も魅力です。」と語り、新入生へ参加を呼びかけています。

今後については、「まずは学生大会への出場を目標に、チームとしても個人としても記録向上を目指したい。」と意欲を示しました。



▲チームの総合優勝に貢献した渡辺颯人さん

渡邊琢益さん(2016年卒)が若手奨励賞を受賞

帯広畜産大学2016年卒(畜産科学課程・環境農学ユニット)の渡邊琢益さんが、令和7年度文部科学大臣優秀教職員表彰式(令和8年1月20日:東京大学)において、若手奨励賞を受賞されました。

文部科学大臣優秀教職員表彰は、学校教育における教育実践に顕著などに顕著な成果を上げた教職員を表彰する制度です。若手奨励賞は、そのうち教職員経験が10年未満の教職員を対象に、特に顕著な成果を挙げた教職員に授与される賞です。渡邊さんは現在、北海道更別農業高等学校に勤務し、農業教育の現場で活躍されています。



事務局だより

札幌支部が再始動（重要）

大変長らく休会していた札幌支部が関係者のご尽力により今年度から再始動することになりました。札幌在住の方で札幌支部に関心のある方は支部だよりに詳細を掲載していますので、そちらをご覧ください。来年の支部総会等に是非参加していただければ幸いです。なお、同窓会ホームページの「同窓会からのお知らせ」に各支部総会開催のお知らせなどを掲載していますので、ご興味のある方はご確認くださいませようお願い申し上げます。

同窓会会報の郵送廃止について

これまで、「同窓会会報」を皆さまに郵送してまいりました。しかしながら、ペーパーレス化の推進や郵送料の値上げといった状況を踏まえ、昨年度の会報 第32号より紙媒体での送付を廃止し、同窓会ホームページで閲覧いただく形式へと変更いたしました。昨年度より二次元バーコードを記載したお知らせを同封しております。ご不便をおかけする方もいらっしゃるかと存じますが、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「記載事項変更届」の郵送廃止について

これまで、同窓会会報のお知らせとともに「記載事項変更届」を同封し、同窓会本部にて記録されている会員情報（終年会費、勤務先、勤務先郵便番号、勤務先住所、勤務先電話番号、勤務先ファックス番号、自宅郵便番号、自宅住所、自宅電話番号、自宅ファックス番号、電子メールアドレス）の確認をお願いしておりました。「記載事項変更届」の返送に関する郵送料も高額になっていることから、返信はがき付きでの「記

載事項変更届」は今回で終了とさせていただきます。今後は、従来の確認事項と同様の内容を記載した書面を同封する形式に変更させていただきます。記載事項に変更のある方は同窓会ホームページの「記載事項変更フォーム」よりオンラインで手続きをお願いいたします。ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

帯広畜産大学同窓会 記載事項変更届

年 月 日

ふりがな 氏 名	旧姓名	終年会費 納入済 ・ 未納
卒業年		職業分類 下記の該当する項目を○で開んで下さい。 民間企業／団体職員・役員 自営・開業／国家公務員 独立行政法人／都道府県公務員 道内市町村公務員 道外市町村公務員 大学・短大・専門学校 道内高等学校／道外高等学校 道内中学校／道外中学校 道内小学校／道外小学校 その他学校／進学 その他職種／一般／不明
勤務先・進学 所在地 ふりがな 名 称	〒 _____ TEL _____ FAX _____	左記の事項は同窓会事務局に登録されているデータを出力したものです。変更または訂正される時は、その箇所のみ赤ボールペン等で正確に記入してご返送下さい。 「団体職員・役員」－農業団体・共済組合・財団法人・医療法人等を意味します。 「進 学」－大学・大学院・専門学校等に在学中の方を意味します。 「一 般」－現在職についていない方を意味します。（定年退職者・専業主婦等） 「不 明」－就職・進学されているか不明な方を意味します。（勤務先名称・進学先名称等記載のない場合は、職業分類を不明と扱わせて頂きます。）
自 宅 所	〒 _____ TEL _____ FAX _____	
電子メール アドレス	@ _____	
		在学生

*ブロック体で記載し、数字以外で分かりづらいアルファベットはフリガナを付けてください。
*個人情報保護のため、ご返信の際同封の目隠しシールを貼って投函して下さい。

会員向け案内の完全電子化について

同窓会では、郵送費の増加や事務負担の軽減、迅速な情報発信を目的として、メールによる電子配信を中心とした運用へ移行することを検討してきました。議論を重ねた結果、3年間の移行期間を設け、令和10年度を目途に、同窓会からのお知らせを全てメールによる電子配信へ移行する予定です。

つきましては、まだメールアドレスの登録がお済でない方は、同封の「記載事項変更届」又は同窓会ホームページの「記載事項変更フォーム」から登録をお願いいたします。

会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【登録フォームの URL】

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdaQfuKIIHQ70nG9-hq6W4zJNs_bMe3WQzGEfqUNMCXi9xjCg/viewform

【登録フォーム の二次元バーコード】



卒業生の大学メールアドレス利用の終了について

これまで帯広畜産大学では、入学時に発行する大学メールアドレス（***@st.obihiro.ac.jp）を、卒業後も引き続きご利用いただけるようになっておりましたが、その大半が放置メールアドレスとなっており、セキュリティ上のリスクが高いことが判明しましたため、継続して運用することは困難と判断し、2027年1月末をもって運用を終了させていただくこととなりました。

これまでご利用いただいていた皆様におかれましては、ご不便をおかけすることとなりますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

運用終了に伴い、メールのデータ等のバックアップ作業は、2027年1月末までに各利用者様にてご対応いただきますよう、お願いいたします。

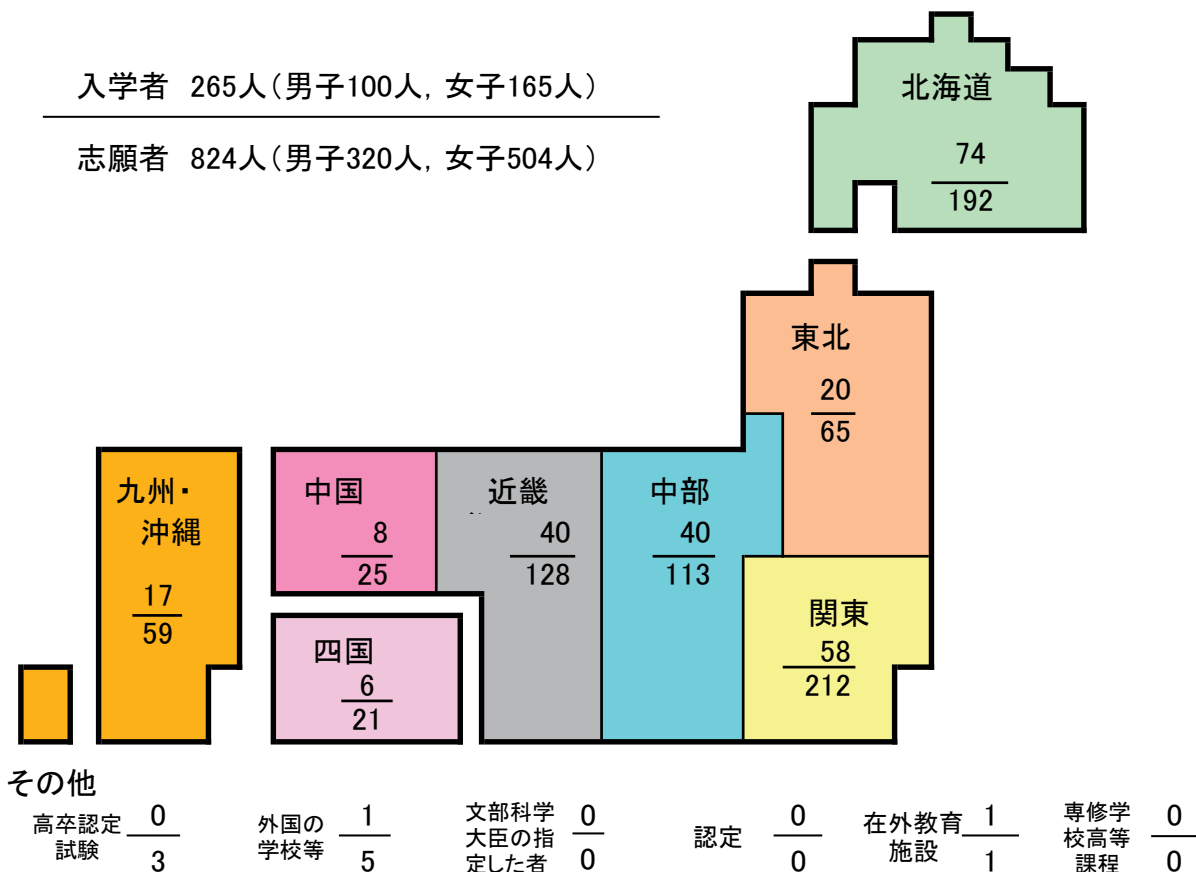
どうぞよろしくお願いいたします。

帯広畜産大学農学情報基盤センター
連絡先メール：center@obihiro.ac.jp

◆ 令和8年度学部地域別志願者・入学者状況

入学者 265人(男子100人, 女子165人)

志願者 824人(男子320人, 女子504人)



訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

児 玉 幹 司 (S52年 農産化学学科)	川 崎 博 (S45年 獣医学科)	三 浦 正 (S25年 農専獣医畜産科)
山 内 良 明 (S42年 農業工学科)	山 田 進 二 (S30年 獣医学科)	野 田 弘 一 (S31年 酪農学科)
山 崎 磯 之 (S25年 農専農芸化学科)	小 栗 紀 彦 (記録なし)	橋 本 徹 (S58年 農産化学科)
名 倉 利 次 (S20年 獣医畜産専門)	熊 谷 宏 (記録なし)	奥 井 勇 幸 (S25年 農専農学科)
高 橋 俊 光 (S38年 総合農学科)	鈴 木 振 一 (S46年 酪農学科)	國 枝 昭 (S23年 農専獣医畜産科)
小 林 亮 助 (S37年 獣医学科)	里 明 (S33年 獣医学科)	野 澤 仁 志 (S46年 農業工学科)
安 田 允 夫 (S29年 酪農学科)	百 瀬 利 正 (S34年 酪農学科)	松 川 直 彦 (S33年 酪農学科)
高 橋 勉 (S43年 草地学専攻)	田 中 光 郎 (S33年 獣医学科)	佐 々 木 信 重 (S33年 総合農学科)
積 惟 貞 (記録なし)	羽 山 伸 一 (S60年 畜産学研究獣医学専攻)	三 宅 陽 一 (記録なし)
森 田 邦 雄 (S41年 獣医学科)	堀 浩 二 (記録なし)	島 田 十 三 治 (S39年 総合農学科)
国 友 雄 馬 (H12年 畜産環境科学科)	竹 田 浩 幸 (S61年 畜産経営学科)	梶 隆 (S25年 農専獣医畜産課)
金 川 幹 司 (S24年 農専酪農科)	高 田 政 昭 (S45年 酪農学科)	半 田 徹 (S36年 酪農学科)
飯 田 満 (S29年 獣医学科)	間 野 康 男 (S36年 酪農学科)	佐 藤 吉 則 (S53年 草地畜産専修)
問 田 正 雄 (S42年 酪農学科)	清 水 清 (S31年 獣医学科)	堀 口 公 三 (S30年 総合農学科)
安 彦 敏 嗣 (S48年 獣医学科)	進 藤 佐 喜 子 (S43年 草地学専攻)	井 手 上 幸 一 (S34年 総合農学科)
直 江 弘 貴 (S55年 農産化学科)	杉 本 和 也 (H26年 獣医学ユニット)	吉 川 清 (S23年 農専酪農家)
橋 本 秀 夫 (S23年 農専獣医畜産課)	嶋 田 義 治 (S40年 獣医学科)	滝 田 巖 (S30年 総合農学科)
佐 藤 七 七 朗 (S32年 獣医学科)	浦 木 増 太 郎 (S25年 農専獣医畜産課)	高 橋 舜 (S20年 帯広獣医畜産専門学校獣医)
高 田 茂 寛 (S31年 獣医学科)	山 中 直 樹 (H14年 草地学専攻)	菅 野 潤 (S56年 獣医学科)
松 田 英 二 (S55年 農業工学科)	上 野 山 隆 根 (S30年 獣医学科)	沢 弘 之 (S34年 酪農)
池 田 和 弘 (S37年 酪農学科)	鈴 木 政 一 (S31年 総合農学科)	小 松 恵 一 (S55年 農業工学科)
三 松 三 朗 (S35年 獣医学科)	田 代 満 春 (S37年 獣医学科)	門 崎 允 昭 (S38年 酪農学科)

*2025年8月から2026年6月までに本部事務局にご連絡をいただきました。

編 集 後 記

帯広畜産大学同窓会報第33号をお届けいたします。本年度は総会を開催しない年にあたるため、10月10日はホームカミングデーのみの開催となります。

また、同窓会事務につきましては、大学の同窓会支援室のご協力をいただきながら、同窓会ホームページの充実をはじめ、さまざまな改革・改善に取り組んでおります。

会員の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、より良い同窓会運営を目指してまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(文責：島田謙一郎(平成4年 家畜生産科学))

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成7年10月14日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂
平成25年10月5日改訂
令和7年10月11日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
 2. 同窓会名簿の管理
 3. 帯広畜産大学の後援
 4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条 本会の本部所在地を北海道帯広市稲田町西2線11番地帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会は次の会員を持って組織する。
1. 正会員
 - 1) 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
 - 2) 帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
 - 3) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したもの
 - 4) その他代議員会で認めたもの
 2. 準会員
帯広畜産大学、大学院畜産学研究科および別科（酪農専修）の学生
 3. 特別会員
帯広畜産大学およびその前身の同窓生以外の教員
- 第6条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。
- 第7条 会員の除名および資格の喪失
1. 本会の名誉を傷つけたり、本会の目的に反した行為を行った会員は、代議員会の決議により、除名とする。
 2. 当該会員が死亡したときは、その資格を喪失する。

第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長 若干名、事務局長1名、庶務担当3名、会計担当3名、名簿担当3名および監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員および代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。

- 第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 第12条 事務局長は庶務担当役員と共に会務を担当する。
- 第13条 会計担当役員は会費を徴収し、本会の資産の管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条 名簿担当役員は同窓会名簿の管理を担当する。本役員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することが出来る。
- 第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条 役員会は会長が召集しその議長となる。本会は構成役員の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。
- 第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条 代議員会は会長が召集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
 2. 会費の変更
 3. 重要な資産の処分
 4. その他の重要な事項

第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めたとき、または10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。
- 第21条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
 2. 役員人事
 3. 資産目録
- 第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条 会員は終身会費として入学時に20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。なお、準会員については、何らかの事情で中途退学した場合、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第27条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第28条 本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。
- 第29条 支部を設置しようとする者は、その代表者から支部会則、役員等の資料を添えて本会に届け出なければならない。なお、支部活動については、支部会にゆだねるものとする。
- 付 則 この会則は令和7年10月11日から施行する。